

キイトルーダ® + インライタ®

◆ 点滴に使用する薬と点滴時間

点滴時間：30分

使用する薬	外観	点滴時間
キイトルーダ® 200 mg		30分

- 薬の量は、副作用の程度などにより変更されることがあります。
- 点滴時間はあくまで目安であり、時間が前後することがあります。

◆ 内服薬

お薬の名前	飲み方、スケジュール
インライタ®錠 5mg 	1回 5 mg 1日2回 連日内服
1mg 	

◆ スケジュール

- 21日間を1コースとして治療を繰り返します。

キイトルーダ®：1日目に点滴

インライタ® 連日内服

1コース：21日間

◆ インライタ®を飲むときの注意

- この薬は、患者さんの疾患、体の大きさによって投与量が決められています。処方された**用法用量、スケジュールを必ず守ってください**。

◆ インライタ®を飲み忘れたとき

- 飲み忘れに気付いた時間が、次の投与時間まで3時間以上あく場合は、すみやかに内服してください。
- ただし、次の内服時間まで3時間未満の場合は内服せず、次回分より通常通り内服し、決して2回分を飲まないでください。

◆ インライタ®を過剰に飲んでしまったとき、間違えたとき

- 多く飲んでしまった、スケジュールを間違えた場合などは、すぐに病院へご連絡ください。

◆ インライタ®の飲み合わせについて

- インライタ®は、**併用に注意が必要な薬や飲食物があります**。薬局やドラッグストアで購入した薬も含め、担当の医師や薬剤師に飲み合わせを確認してもらいましょう。

◆ 治療日誌について

- 副作用の症状を把握したり飲み忘れがないように、治療日誌をつけましょう。

◆ 薬の名前について

- このパンフレットには、当院で使用しているお薬の名前が書かれています。調剤薬局で受け取ったお薬の名前と異なる場合があるため、お薬の名前を薬局でご確認ください。

◆ 主な副作用

◆ 点滴中

下記の赤字の症状があるときは、すぐに医療スタッフへお声かけください。

過敏反応（アレルギー）

寒気、吐き気、頭痛、めまい、発疹、息苦しい

治療開始1～2回目が起きやすいですが、治療を繰り返していても現れることがあります。

血管外漏出

点滴が漏れている、針を刺したところが痛い、熱っぽい、赤く腫れている、違和感がある

◆ 点滴終了後～1週間頃

吐き気・嘔吐・食欲不振

必要に合わせて、吐き気止めでしっかりと予防を行っています。

それでも症状がある場合は、吐き気止めを追加で使用することがあります。治療開始から1週間以上遅れて出る可能性もあります。

水分が摂れないほど吐き気・嘔吐がひどい場合は、ご連絡ください。

関節痛・筋肉痛

肩や背中、腰、手足の関節などが痛くなることがあります。

温めたりマッサージをすると改善することがあります。痛み止めを使用することがあります。

発疹

皮膚が赤くなる、かゆみが出ることがあります。

刺激の少ない肌着を着用しましょう。塗り薬やかゆみ止めの内服薬を使用することがあります。

治療開始後数日以内に全身に発疹やかゆみが出る、目の粘膜や唇がただれる、発熱を伴う場合などはすぐに病院へ連絡してください。

倦怠感（だるさ）

疲れやすい、気力がない、体が重いなどの症状で、日常生活に支障が出る場合は、診察時に主治医へご相談ください。

◆ 1～2週間頃

下痢

普段より1日4回以上多く排便がある、または1回でも水のような便があるときは、**下痢止めを使用**することがあります。

強い腹痛や発熱を伴う場合、医師から処方された下痢止めで改善しない場合は、ご連絡ください。

口内炎

口の中がヒリヒリする、しみる、痛くなることがあります。

歯みがきやうがいで口の中を清潔に保ち、乾燥を防ぐことが大切です。
またうがい薬や塗り薬を使用することがあります。

がまんできない、水分もとれないほどの口の中の痛みがある場合は、病院へご連絡ください。

◆ 2～3週間頃

手足症候群

手のひらや足の裏に、赤く腫れる、ひび割れ、水ぶくれなどの症状が
でます。

痛みを伴い、ひどくなると生活に支障が出ます。症状の強さ、薬の種
類によっては、**フローズングローブを使用**することがあります。

保湿剤（市販のハンドクリーム使用可）を塗り、予防しましょう。
手足へ過度な負担をかけないようにしてください。

◆ 蓄積性の副作用

味覚障害

味を感じにくくなる、塩味を強く感じる、金属味がする、まずく感じるなど味覚に異常が出る場合があります。

発声障害

しゃべりにくい、声が変わるなどの症状が出る場合があります。
休薬することで回復します。

◆ 検査でわかる副作用

高血圧

血圧が高くなることがあるため、自宅で定期的に血圧を測定し記録し、診察時に医師に記録を見せましょう。

血圧を下げる薬を使用することがあります。

自宅での血圧が180/120mmHgを超える、頭痛や胸の痛みなどの他の症状を伴うときは、病院へご連絡ください。

タンパク尿

尿にタンパクが出ることもあるため、定期的な尿検査を行います。

甲状腺機能障害

甲状腺は、甲状腺ホルモンを分泌して体内の機能を保つ組織です。

ホルモン値の変動にあわせて、お薬を使用することがあります。

【血液検査・尿検査について】

副作用の確認のために、定期的な検査を行います。

◆ その他の副作用

非常にまれな副作用ですが、万が一赤字の症状がある場合は、すぐに病院へご連絡ください。

間質性肺炎

たんが絡まない乾いた咳、息苦しい、発熱

心障害

定期的な心機能検査を行います。

足がむくむ、顔やまぶたが腫れぼったくなる、3日で2kg以上の体重増加がある、ちょっとした階段や坂で動悸や息切れを感じる

肝機能障害

定期的な血液検査を行います。

白目や皮膚が黄色くなる（黄疸）、ひどいだるさ

血栓塞栓症（血のかたまりが脳、心臓、肺などの血管につまる）

手足に力が入らない、ろれつが回らない、めまい、しめつけられるような胸痛、息苦しい、片方の足に急激な痛みや腫れがある

出血

青あざができる、鼻血、歯茎から出血しやすいなどの症状が出ることがあります。

血痰がある、下血がある場合は病院へ連絡してください。

消化管穿孔

今までに経験のないひどい腹痛

キイトルーダ®を投与される方へ

免疫異常により全身に様々な症状が起こる可能性があります。
以下は、主な症状と可能性のある副作用です。
症状がある場合は病院へご連絡ください。

発現部位が限られる症状

嘔吐、精神状態の変化
→**脳炎**

かすみ目、まぶしく感じる
視力低下
→**ぶどう膜炎**

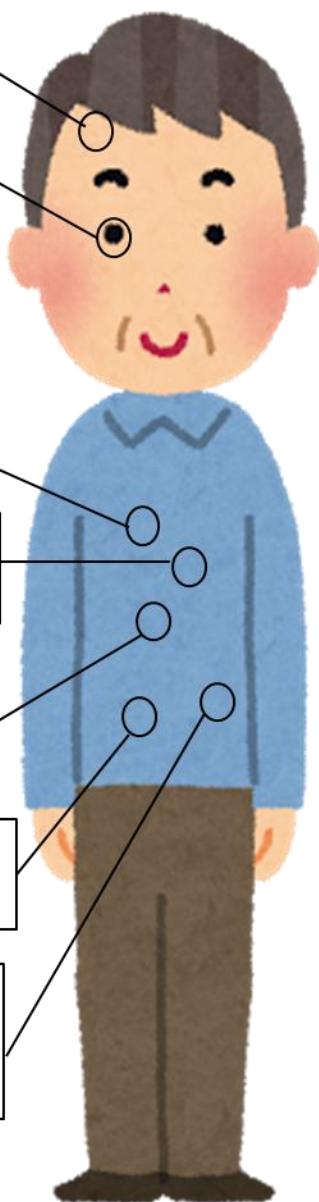
乾いた咳、息苦しさ
息切れ
→**間質性肺炎**

めまい、動悸、意識の低下
→**心臓障害**

皮膚や白目が黄色くなる
→**肝臓障害**

ひどい下痢、血便、黒い便
→**大腸炎**

尿量が減る、血尿が出る
むくむ
→**腎臓障害**



全身に出る可能性のある症状

疲れやすい、体重の増減
いらいらや物忘れしやすい
体がだるい
→**甲状腺、下垂体、副腎などの
内分泌機能異常**

発疹、水ぶくれ、ひどい口内炎
→**重症な皮膚障害**

息苦しさ、手足に力が入らない
ものが二重に見える、筋肉痛
→**重症筋無力症**

のどが乾く、水をよく飲む
だるい
→**1型糖尿病**

皮膚のあざ、
口や鼻から出血しやすい
→**血小板減少症**

運動・感覚まひ
手足のしびれや痛み
→**神経障害**

足のむくみ、痛み、胸痛
→**静脈血栓塞栓症**

甲状腺・下垂体・副腎機能障害

甲状腺や下垂体、副腎はホルモンを分泌して体内の機能を保つ組織です。ホルモン値の変動にあわせて、お薬を使用することがあります。

間質性肺炎

たんが絡まない乾いた咳、息苦しい、発熱などが急に現れる、または以前から症状があり、その症状が急に悪くなった場合は病院へご連絡ください。レントゲンで定期的に検査します。

皮疹・皮膚炎、白斑

皮疹がでたり、皮膚が赤くなるまたは白くなることがあります。症状に応じて飲み薬やぬり薬を使います。

全身への皮疹やかゆみが強い時、またはひどい口内炎やまぶた・目の充血、粘膜のただれ、発熱をとまなう場合は病院へご連絡ください。

下痢・大腸炎

軟便、もしくは明らかな排便回数の増加がみられることがあります。血便や黒色便、腹痛を伴う場合は、下痢止めを使用せず病院へご連絡ください。

肝機能障害

肝臓の働きが低下することがあるため、定期的に血液検査を行い、肝臓の働きを確認します。お酒やサプリメント、健康食品でも肝臓の働きが低下することもあります。これらを服用中の方は、主治医に申し出て下さい。白目や皮膚が黄色くなる（黄疸）、ひどいだるさがある場合は、病院へご連絡ください。

腎機能障害

腎臓がうまく働かなくなることがあります。腎臓の働きが悪くなるとお薬が体内から抜けにくくなり、副作用が強くなる場合があります。尿量の減少、全身のむくみがある場合は、病院へご連絡ください。

重症筋無力症・筋炎

体に力が入らない、まぶたが下がる、筋肉が痛いなどある場合は、病院へご連絡ください。

脳炎・髄膜炎

頭痛、吐き気、意識が薄れる、首を前に曲げにくい場合は、病院へご連絡ください。

糖尿病・糖尿病性ケトアシドーシス

からだのだるい、のどの渇き、尿量が増える場合は、病院へご連絡ください。定期的な尿検査を行いますが、ご自宅でも尿糖検査での自己チェックをお願いします。

免疫チェックポイント阻害薬における高血糖の早期発見のために

免疫チェックポイント阻害薬は、免疫のしくみ（免疫機能）を利用した治療です。がん細胞を攻撃する作用がある一方で、様々な副作用を認めることがあります。頻度は稀ですが特に、急激に発症する**劇症1型糖尿病**は命に関わる副作用であるため、十分な注意が必要になります。

劇症1型糖尿病の初期症状：上気道炎症状（発熱、咽頭痛など風邪のような症状）
全身倦怠感（しんどい、だるい）
消化器症状（上腹部痛（おなかのいたみ）
吐き気（むかむかする）、嘔吐など）

高血糖の症状：口渇、多飲、多尿、体重減少、全身倦怠感、意識障害

血糖値が高くなっていないかを簡便に知る方法として**尿糖をチェックする方法**があります。尿糖チェックは、手軽に現在の血糖の状態を間接的に知ることができ、糖尿病の発見に大変有用です。そのため、試験紙を購入頂き、自宅で検査していただくことをお勧めしています。

近隣のドラッグストアや薬局、もしくはインターネットで「**新ウリエース®Ga**」を購入してください。30枚入りで990円です。

検査するタイミング

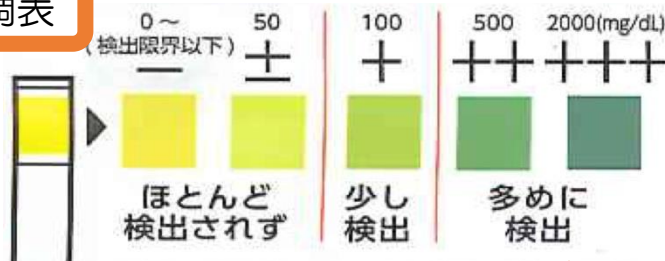
治療開始前（ベースライン）

- 朝起きて、最初の尿

治療開始後 2～3日毎

- 朝起きて、最初の尿
- 倦怠感など通常と違うと感じたとき（随時）

色調表



緑色に変化したら、**要相談!!!!**



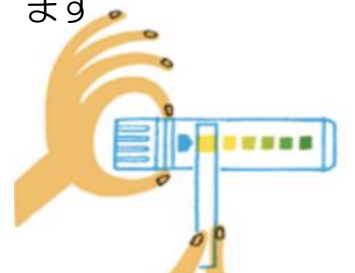
(1) 約1秒間、試験紙に尿をかけます



(2) 30秒後に、色調表と比較して、判定します



(3) 判定後は、そのままトイレに捨てられます



◆ 緊急時の連絡方法

困ったことがあったときは、下記にご連絡ください。

気持ち悪くて水分も摂れない
下痢が止まらない
37.5℃以上の発熱が続いている
薬の使用方法がわからない

など



診察券を用意する

代表：044-977-8111 に電話をかける

平日：8:30-17:00
土曜日：8:30-12:30

腫瘍センター
ナースステーション

夜間帯・休診日
など左記以外の時間

各診療科の当直医

◆ 予約外受診の方法

病院本館正面玄関に入って右手の
「②再診受付」または「予約外受付機」で手続きした後、
各診療科の外来でお待ちください。

※受付時間：平日8:30-11:30 土曜日8:30-11:00

- 生活上の注意については、別冊のパンフレットもご参照ください。
- ご不明な点がある場合は、遠慮なく医療スタッフにお尋ねください。

薬剤師